「万博・カジノ」どう見る

標題は朝日新聞 6 月 2 日朝刊の内田樹さんに聞く。内田さんらしい鋭い指摘であり、同感するところも多いので紹介したい。

「当初は長寿がどうとか言ってませんでしたっけ。テーマがころころと換わること自体、世界に向けて伝えたいメッセージや歴史的意義があって開催するものではないということをはしなくも露呈している」

「万博は、先端的な科学技術を世界で共有するということが大きな目的だったと思います。自動車、飛行船、映画といったそれぞれの時代ごとの先端技術は、万博でデビューした」「1889 年、フランス革命 100 周年で開かれたパリ万博のモニュメントはエッフェル塔でした。最先端の建築技術の精華である巨大な建造物が、動乱と革命の 100 年を経たパリの街を睥睨する。それは中世に対する近代の最終的勝利の象徴だったと思います。でも、大阪万博はいったいどんな歴史的な転換を象徴しているんですか」

「1970 年万博のシンボル・太陽の塔は、縄文時代の土偶に影響を受けた芸術作品であって、岡本太郎はそこに近代文明にたいする自然からの異議申し立てを託した。まさにエッフェル塔と正反対の、反・近代のメッセージです。そういう文明史的メッセージが次の万博にありますか」

「リニア中央新幹線、東京五輪は半世紀以上前の成功モデルの模倣に過ぎません。人口減、少子高齢化、首都圏への一極集中などの課題は山積していますが。未来へのビジョンを誰も描けていない。政策立案者に長期的な構想力が決定的に欠けています」

「将来、こういう社会にしたいというビジョンがあって、そこに向かって国民的な努力を集中しましょうという話であれば、人々は未来に希望が持てる。でも『パンとサーカス』的なプロジェクトには、目先の銭金の期待以上のものがない」

「世界的に成功しているカジノなんて米国のラスベガスとシンガポールなど、数えるほどです。地下鉄の延伸という計画からして、外洋クルーザ―や自家用ジェットで来る世界の富裕層ではなく、千円札を握りしめてくるご近所のばくち好きをクライアントに想定しているということです」

「大阪はもともとは弱者に優しい街でした。貧しくても、弱くても、それでも愉快に生きられる、そういう環境づくりに優先的に資源を投入するのがほんとうの『大阪らしさ』なんじゃないですか。行政の目的は、人間が共同的に生きてゆくために必要なサービスを安定的継続的に維持することです。『民間では‥‥』という株式会社のロジックをふりかざして行政、教育、医療を営利企業のようなものに再編することではありません。限られた資源を一獲千金的なプロジェクトに注ぎ込めば、大阪は取り返しのつかないダメージを負うことになります」

（2018 年 6 月 14 日）